

(小規模企業景気動向調査)

三重の景況

No.64

(平成26年1月～6月期)

三重県商工会議所連合会
桑名商工会議所
四日市商工会議所
鈴鹿商工会議所
亀山商工会議所
津商工会議所
松阪商工会議所
伊勢商工会議所
鳥羽商工会議所
上野張商工会議所
名張商工会議所
尾鷲商工会議所
熊野商工会議所

はじめに（総括）

三重県商工会議所連合会では、県下 12 商工会議所合同で、地域の小規模企業を対象とした景況調査を年 2 回実施しており、このたび平成 26 年上期の調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

三重県下の景況を示す指標である「現状」の D I 値は、 $\Delta 22.4$ と平成 25 年下期に比べ 8.9 ポイント低下しており、25 年度上半期・下半期と上昇を続けていた改善傾向に歯止めがかかりました。今後の「見通し」では、D I 値は $\Delta 31.7$ となり、「現状」と「見通し」を比べると 9.3 ポイント低下しています。

業種別にみると、「現状」D I 値が全体的に低下しており、交通運輸業 $\Delta 26.5$ (前期 6.4) が前期より 32.9 ポイントと最も低下してプラスからマイナスに転じました。他業種でも、製造業 $\Delta 13.6$ (前期 $\Delta 6.3$)、建設業 2.7 (前期 11.5)、卸売業 $\Delta 24.8$ (前期 $\Delta 13.4$)、小売業 $\Delta 46.8$ (前期 $\Delta 38.5$)、飲食業 $\Delta 32.3$ (前期 $\Delta 32.0$)、サービス業 $\Delta 34.5$ (前期 $\Delta 26.5$) と、すべての業種で前回よりも悪化という結果になりました。

今後の「見通し」を見ると、飲食業を除くすべての業種で「現状」よりも D I 値が低く、特に建設業で 19.3 ポイント低下して、プラスからマイナスに転じる見通しとなっています。

地区別にみると、「現状」D I 値では、北勢地区 $\Delta 16.8$ (前期 $\Delta 10.9$)、中勢地区 $\Delta 20.0$ (前期 $\Delta 12.4$)、南勢地区 $\Delta 33.3$ (前期 $\Delta 8.1$)、伊賀地区 $\Delta 23.9$ (前期 $\Delta 15.8$)、東紀州地区 $\Delta 43.0$ (前期 $\Delta 39.0$) となり、特に南勢地区が 25.2 ポイントと最も低下しました。今後の「見通し」については、北勢地区 $\Delta 26.2$ 、中勢地区 $\Delta 30.3$ 、南勢地区 $\Delta 46.3$ 、伊賀地区 $\Delta 28.2$ 、東紀州地区 $\Delta 48.0$ となり、すべての地区で「現状」よりも D I 値が低く、特に南勢地区で 13.0 ポイントと最もマイナス幅が拡大する見通しとなりました。

また、「売上状況」「売上の見通し」「利益状況」「仕入条件」の項目について、前期よりも D I 値が低下し、景況感が悪化している傾向を示しています。

景気の方向性を示す項目である設備投資は、「予定している」とした割合は、全体で 10.1% (前期 14.0%) と 3.9% 減少しました。業種別では、交通運輸業が 20.4% と他の業種よりも多く設備投資を行う予定となっており、卸売業が 3.8% と最も低い数値となりました。また、地区別の設備投資の予定では中勢地区が 12.1% と最も高い数値となりました。

「借入の状況（難易度）」の D I 値は、全体で $\Delta 3.5$ (前期 $\Delta 1.2$) と 2.3 ポイント低下しましたが、業種別では建設業、飲食業で、地区別では伊賀地区、東紀州地区で改善が見られました。

また、「借入を予定している」と回答した企業の割合は 14.4% (前期 15.7%) と 1.3% 減少し、「使途予定」については“運転資金”の割合は 73.5% (前期 66.6%) で“設備資金”の割合は 23.5% (前期 29.6%) となりました。

以上が本調査結果の概要です。本調査報告書が皆様の今後の企業経営の参考や小規模企業に対する更なる理解に資することになれば幸いに存じます。

最後に本調査の実施、作成にあたり、調査対象企業をはじめ関係各位の皆様にご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

平成 26 年 8 月

三重県商工会議所連合会

も く じ

(調 査 内 容)

・ 調査要領	1
1. 現状と今後の見通し	4
現況D I 値の推移	6
2. 売上状況	8
3. 今後の売上見通し	8
4. 利益状況	9
5. 販売条件	9
6. 仕入条件	10
7. 設備投資	10
8. 資金繰り状況と今後の見通し	11
9. 借入状況	12
借入難易度D I 値の推移	13
10. 借入予定	14
11. 借入希望先	14
12. 借入金の使途予定	15
13. 経営上の問題点	15
・ 県下商工会議所地域における景況	17
・ 調査票（写し）	

「三重の景況」調査要領

1. 調査目的

当調査は、三重県商工会議所連合会と県下12商工会議所〔*1〕が、小規模企業〔*2〕の動向を
合同で調査することにより、県内小規模企業の景況把握を、地区別〔*3〕に行い、合わせて各会議
所地域の景況を調査することにより、各商工会議所の事業活動の参考とすることを目的とする。

〔*1〕 県下商工会議所

桑 名商工会議所	中小企業相談所
四日市商工会議所	中小企業相談所
鈴 鹿商工会議所	中小企業相談所
亀 山商工会議所	中小企業相談所
津 商工会議所	中小企業相談所
松 阪商工会議所	中小企業相談所
伊 勢商工会議所	中小企業相談所
鳥 羽商工会議所	中小企業相談所
上 野商工会議所	中小企業相談所
名 張商工会議所	中小企業相談所
尾 鷲商工会議所	中小企業相談所
熊 野商工会議所	中小企業相談所

〔*2〕 小規模企業（中小企業基本法による）

卸売・小売・サービス業は従業員5人以下、製造・建設・その他の業種については
20人以下。（会社の役員・家族従業員・パートを除く）

〔*3〕 県内各地区は下記のとおり

北勢地区……桑名・四日市・鈴鹿・亀山
中勢地区……津・松阪
南勢地区……伊勢・鳥羽
伊賀地区……上野・名張
東紀州地区…尾鷲・熊野

2. 調査対象・回答状況

県下12会議所の会員企業中、任意抽出した小規模企業9,000社を対象とした。回答状況は、回答率28.5%、回答企業2,569社であった。

3. 調査方法

FAXまたは郵送方法によるアンケート方式

4. 調査期間

平成26年7月1日～7月11日

※当調査は、“1月～6月期”と“7月～12月期”の年2回、調査を実施している。

5. 集計方法

外部委託を行い、一括コンピュータ集計を行った。

6. 調査結果の取りまとめ

調査結果の取りまとめについては、桑名・四日市・鈴鹿・亀山の4商工会議所が担当した。なお、各商工会議所地域の景況は当該商工会議所が担当した。

D I 値（ディフュージョン・インデックス）の見方について

D Iとは景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動（強気や弱気など）を知るものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及のない限り、「増加」「好転」したとする企業割合から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

（注）図表中の数値表示について

図表中の数値については小数点以下第2桁で四捨五入をしているため、合計が100.0にならない場合がある。

業種別・地区別回答状況

単位:企業 ():% 上:業種別構成率 下:地区別構成率

業種	地区	北勢				中勢			南勢			伊賀		東紀州		計				
		桑名	四日市	鈴鹿	亀山	津	松阪		伊勢	鳥羽		上野	名張	尾鷲	熊野					
製造業	食料	38	14	13	10	1	22	5	17	22	8	14	11	6	5	19	14	5	112	
	せんい	11	3	4	2	2	2	0	2	2	2	0	9	8	1	2	1	1	26	
	機械	72	36	12	18	6	18	7	11	15	6	9	7	2	5	0	0	0	112	
	金属製品	81	41	18	18	4	11	3	8	11	7	4	5	4	1	5	4	1	113	
	木材	21	10	5	2	4	14	1	13	6	5	1	4	2	2	10	7	3	55	
	化学	9	3	4	2	0	3	3	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0	15	
	窯業	15	2	9	3	1	4	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	21	
	印刷出版	10	6	1	2	1	14	8	6	5	5	0	4	0	4	2	1	1	35	
	その他	50	16	15	17	2	16	5	11	17	14	3	7	6	1	6	3	3	96	
計	307 (24.1) (52.5)	131	81	74	21	104 (19.7) (17.8)	34	70	80 (21.2) (13.7)	49	31	50 (23.5) (8.5)	28	22	44 (25.1) (7.5)	30	14	585 (22.8) (100.0)		
非製造業	卸売業	食料	25	13	9	1	2	9	5	4	8	7	1	5	1	4	5	4	1	52
		せんい	7	2	1	3	1	5	3	2	5	5	0	0	0	0	0	0	0	17
		その他	58	22	25	10	1	24	5	19	18	14	4	12	6	6	1	1	0	113
		(小計)	90	37	35	14	4	38	13	25	31	26	5	17	7	10	6	5	1	182
	小売業	せんい	28	15	6	4	3	28	9	19	22	16	6	7	4	3	17	11	6	102
		食料	46	19	9	15	3	19	4	15	12	8	4	7	3	4	12	7	5	96
		日用品	12	9	1	2	0	6	2	4	6	6	0	1	1	0	2	1	1	27
		電気製品	14	5	0	8	1	7	1	6	8	8	0	6	2	4	6	5	1	41
		その他	97	32	19	33	13	48	6	42	33	19	14	21	12	9	11	9	2	210
	(小計)	197	80	35	62	20	108	22	86	81	57	24	42	22	20	48	33	15	476	
	サービス業	美容・理容	39	16	10	9	4	10	4	6	3	1	2	4	2	2	4	3	1	60
		ホテル旅館	4	1	0	3	0	4	1	3	16	2	14	0	0	0	6	2	4	30
		自動車整備	38	16	4	14	4	23	4	19	6	6	0	5	2	3	4	3	1	76
		不動産	37	15	20	2	0	16	8	8	7	7	0	8	1	7	1	1	0	69
		その他	93	41	25	19	8	40	22	18	25	20	5	12	4	8	6	2	4	176
		(小計)	211	89	59	47	16	93	39	54	57	36	21	29	9	20	21	11	10	411
	建設業	土木工事	70	14	20	31	5	23	12	11	10	6	4	16	6	10	5	5	0	124
		建築工事	132	44	36	43	9	38	16	22	36	28	8	10	2	8	8	8	0	224
		その他	113	32	47	30	4	50	27	23	30	26	4	17	5	12	9	5	4	219
		(小計)	315	90	103	104	18	111	55	56	76	60	16	43	13	30	22	18	4	567
	飲食業	81	29	24	23	5	31	4	27	34	19	15	9	3	6	18	11	7	173	
交通運輸業	15	4	4	5	2	25	6	19	3	2	1	3	1	2	3	3	0	49		
計	909 (71.3) (48.9)	329	260	255	65	406 (76.9) (21.9)	139	267	282 (74.6) (15.2)	200	82	143 (67.1) (7.7)	55	88	118 (67.4) (6.4)	81	37	1,858 (72.3) (100.1)		
その他	59 (4.6) (46.8)	15	23	17	4	18 (3.4) (14.3)	15	3	16 (4.2) (12.7)	8	8	20 (9.4) (15.9)	4	16	13 (7.4) (10.3)	10	3	126 (4.9) (100.1)		
合計	1,275 (100.0) (49.6)	475	364	346	90	528 (100.0) (20.6)	188	340	378 (100.0) (14.7)	257	121	213 (100.0) (8.3)	87	126	175 (100.0) (6.8)	121	54	2,569 (100.0) (100.1)		

1. 現状と今後の見通し

a) 現状 (図—1・2・3 参照)

全回答企業 2,569 事業所中、「良い・やや良い」が 19.9%、「変わらない」が 37.4%、「悪い・やや悪い」が 42.3%で、D I 値は△22.4 (前回△13.5) となり前回より 8.9 ポイント悪化している。

業種別の D I 値では、小売業△46.8、サービス業△34.5、飲食業△32.3、交通運輸業△26.5、その他の業種△25.0、卸売業△24.8、製造業△13.6、建設業 2.7 の順となっている。

地区別の D I 値では、北勢地区△16.8、中勢地区△20.0、南勢地区△33.3、伊賀地区△23.9、東紀州地区△43.0 であった。

図—1 現状について (業種別)

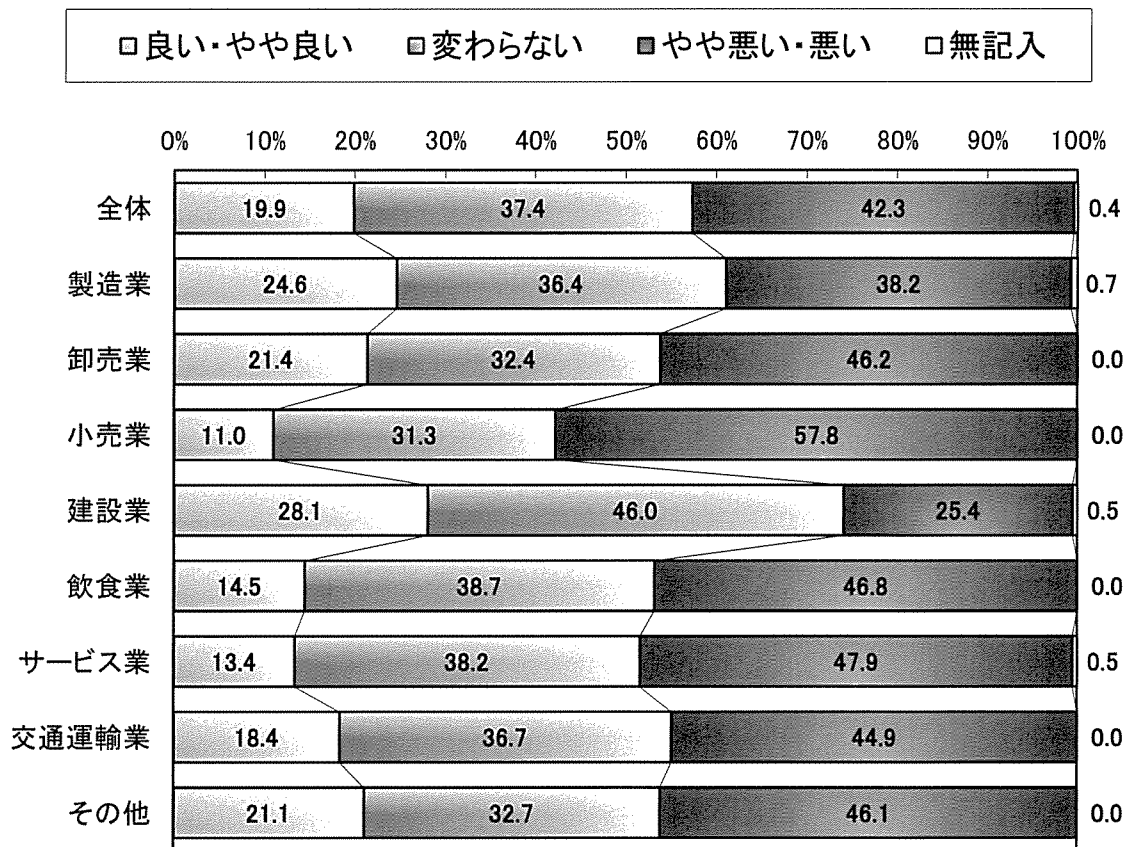


図-2 現状について（全体・地区別）

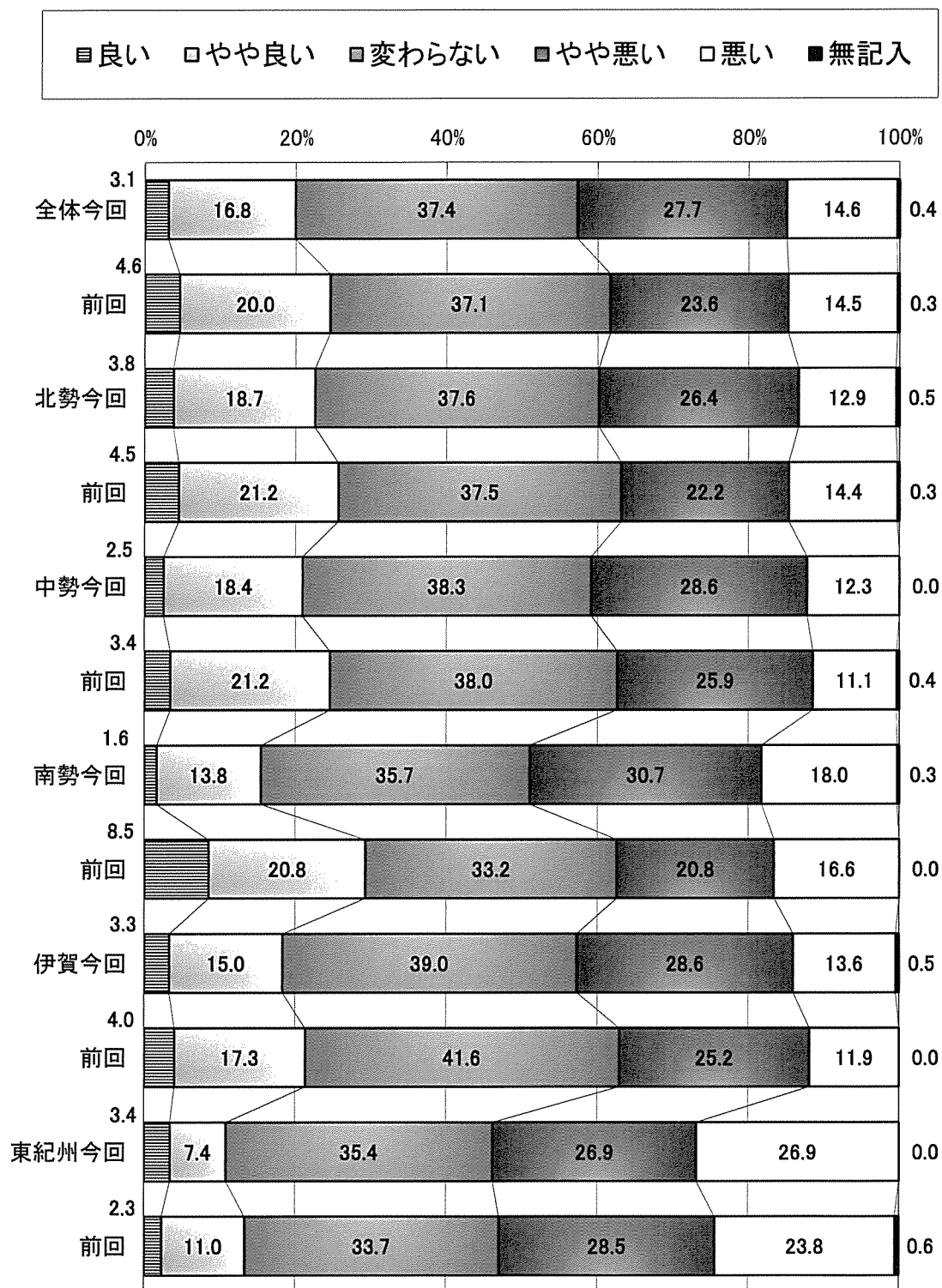
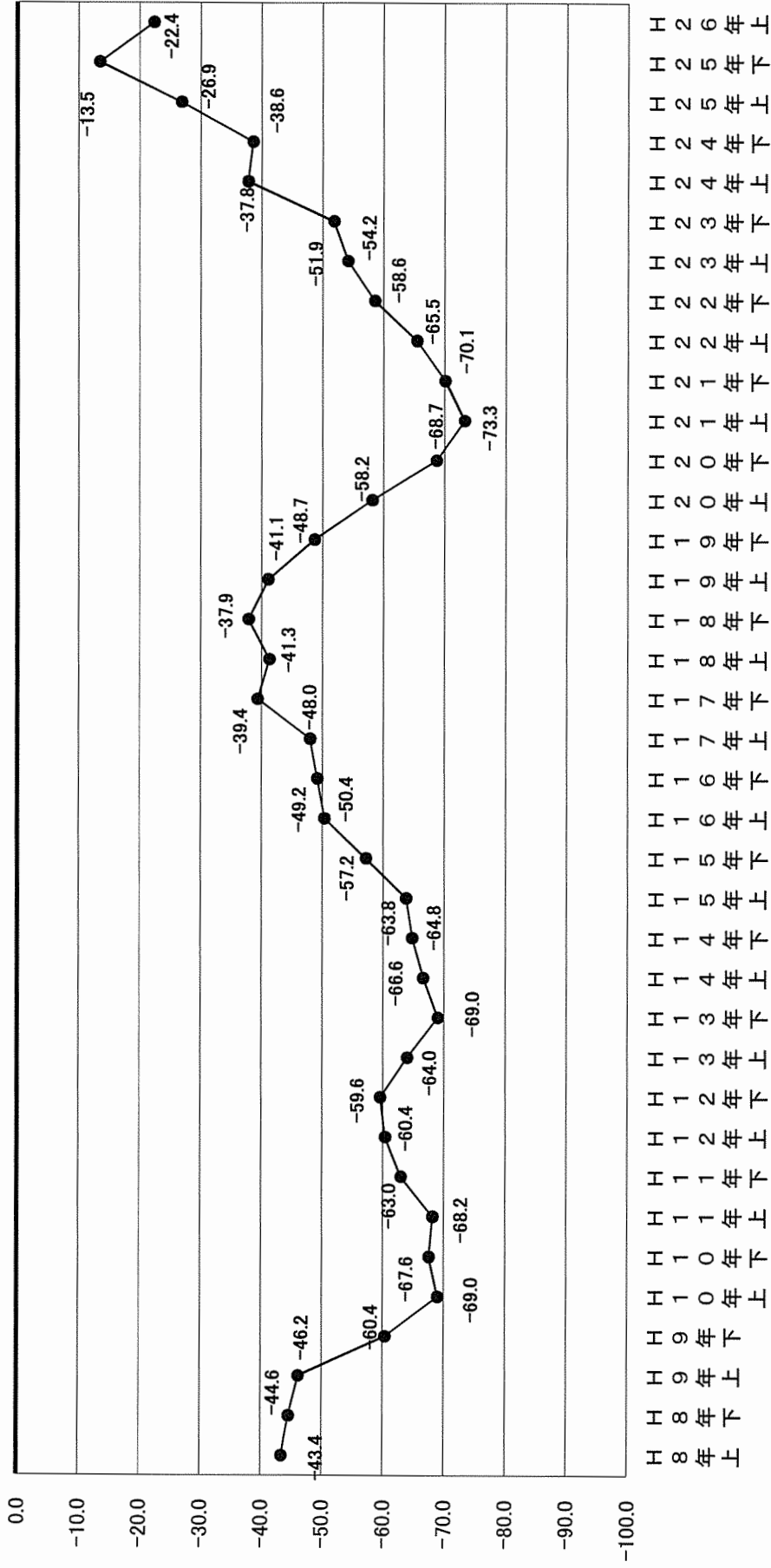


図-3 現況D I 値の推移



注) H17下期分までの値はB S I 値を2倍した数値で表示

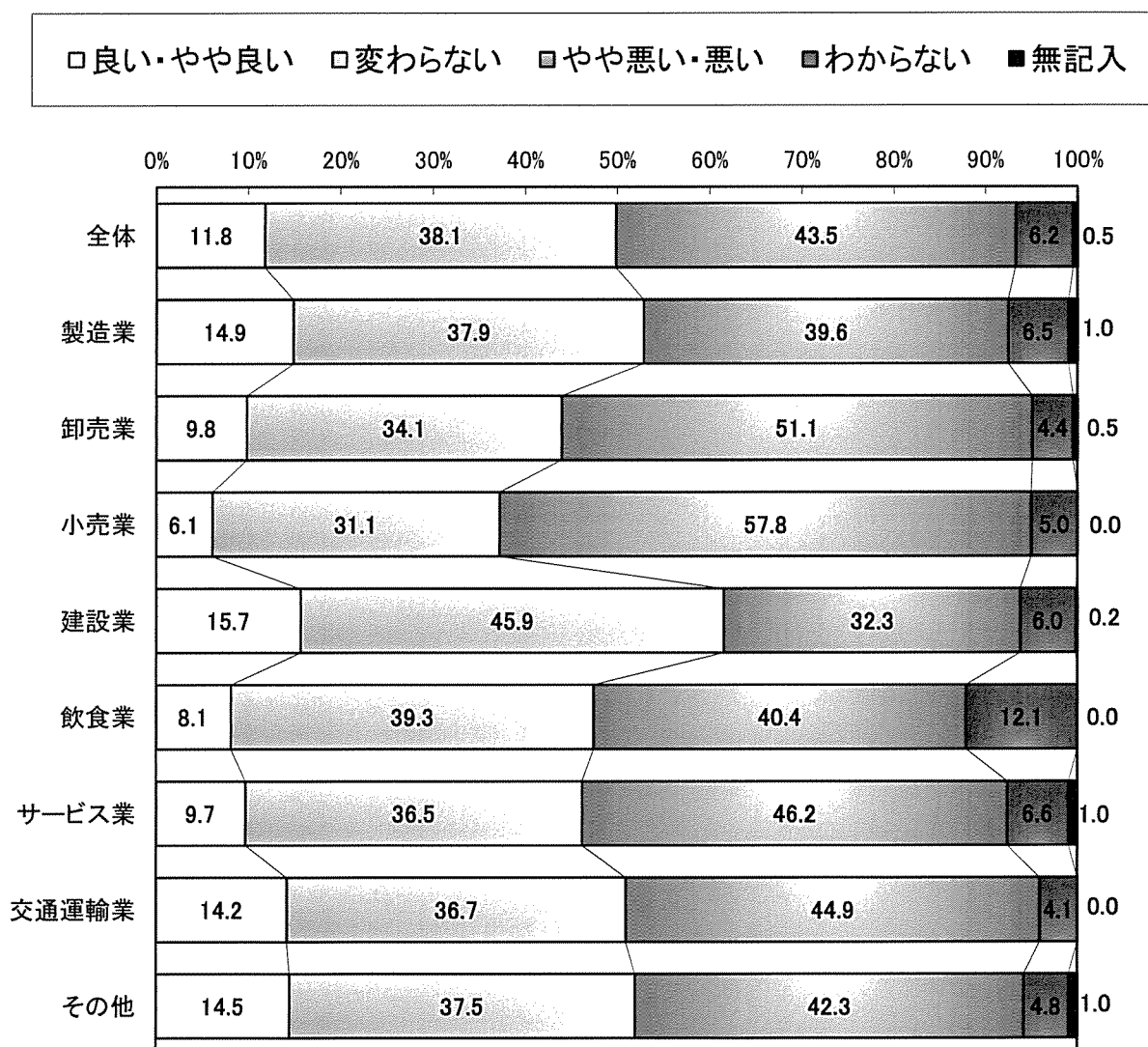
b) 見通し（図—4 参照）

全体的見通しでは、「良い・やや良い」が 11.8%に対し、「悪い・やや悪い」は 43.5%で、D I 値は△31.7（前回△20.3）となり、11.4 ポイント悪化となった。

業種別では、D I 値で小売業△51.7、卸売業△41.3、サービス業△36.5、飲食業△32.3、交通運輸業△30.7、その他の業種△27.8、製造業△24.7、建設業△16.6 の順であった。

地区別のD I 値では、北勢地区△26.2、中勢地区△30.3、南勢地区△46.3、伊賀地区△28.2、東紀州地区△48.0であった。

図—4 今後の見通しについて（業種別）



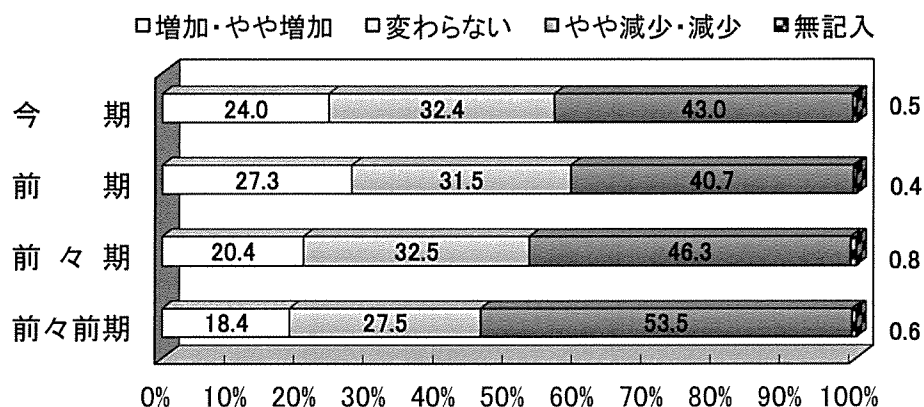
2. 最近の売上状況（図—5 参照）

全体では、「増加・やや増加」が 24.0%（前回 27.3%）、「やや減少・減少」が 43.0%（前回 40.7%）で、D I 値は△19.0（前回△13.4）となり、5.6 ポイント悪化した。

業種別では、建設業が 10.2 ポイント（前回 10.8）と引き続きプラスの水準を維持したが、それ以外の業種は交通運輸業が△27.0 ポイント悪化して△16.4（前回 10.6）となるなど、マイナス水準で推移している。

地区別では、全地区で悪化となった。特に南勢地区では△28.6（前回△8.4）と△20.2 ポイントの悪化となった。

図-5 売上状況



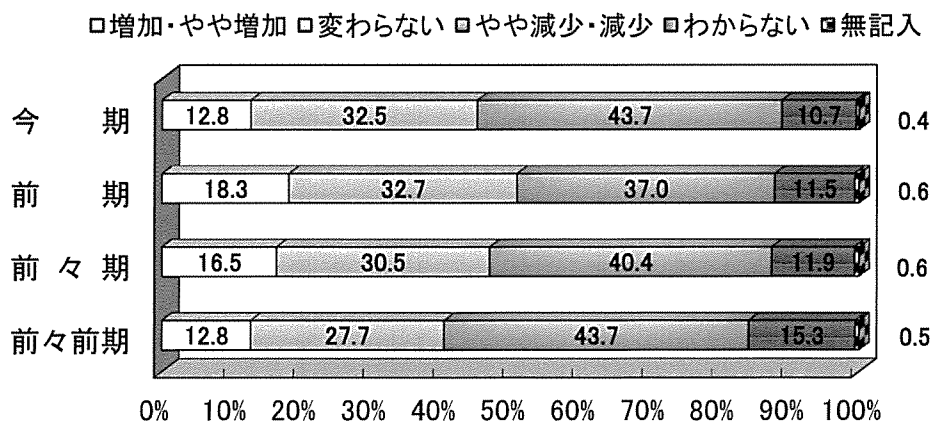
3. 今後の売上見通し（図—6 参照）

全体では、「増加・やや増加」が 12.8%（前回 18.3%）、「やや減少・減少」が 43.7%（前回 37.0%）で、D I 値は△30.9（前回△18.7）となり 12.2 ポイント悪化の見通しとなった。

業種別では、飲食業が△26.6（前回△31.2）と 4.6 ポイント改善の見通しであるが、それ以外の業種は悪化を見通しており、特に交通運輸業は△26.6（前回 0）と 26.6 ポイント悪化の見通しとなった。

地区別では、全地区で悪化の見通しとなっており、特に南勢地区で△39.1（前回△16.9）と 22.2 ポイント悪化の見通しとなった。

図-6 売上見通し



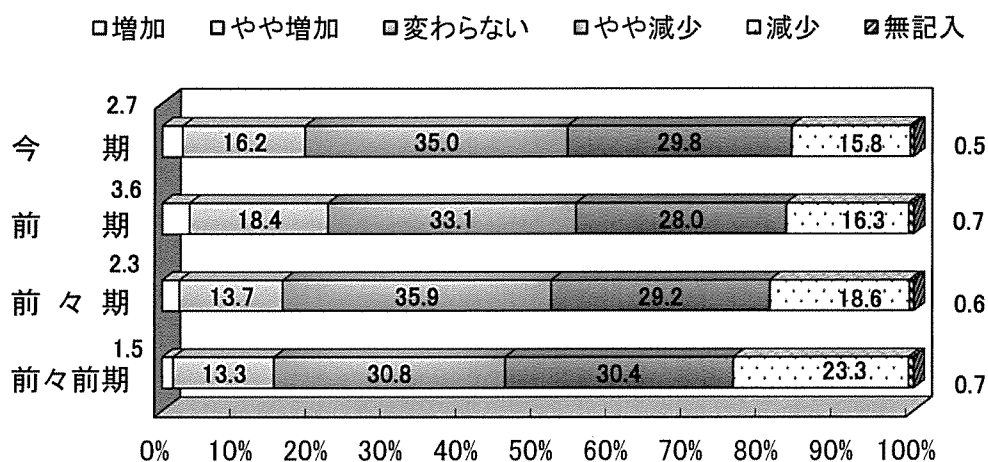
4. 利益状況（図—7 参照）

全体では、「増加・やや増加」18.9%（前回22.0%）、「やや減少・減少」が45.6%（前回44.3%）で、D I値は△26.7（前回△22.3）となり、4.4ポイントの悪化となった。

業種別では、建設業で0.4（前回△1.3）とプラスの水準に改善したが、それ以外の業種で悪化しており、特に交通運輸業では、△32.7（前回△12.7）と20.0ポイント悪化している。

地区別では、全地区で悪化となった。南勢地区では△33.8（前回△18.5）と15.3ポイント悪化しているほか、東紀州地区は△50.8（前回△45.3）となった。

図—7 利益状況



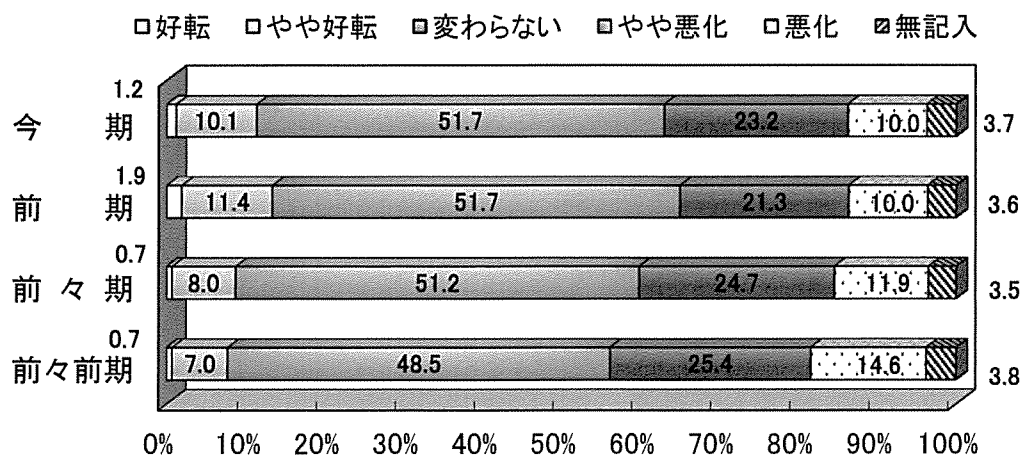
5. 販売条件（図—8 参照）

全体では、「好転・やや好転」が11.3%（前回13.3%）、「やや悪化・悪化」は33.2%（前回31.3%）で、D I値は△21.9（前回△18.0）となり、3.9ポイントの悪化となった。

業種別では、交通運輸業が△6.1（前回△6.4）と0.3ポイント、飲食業で△31.8（前回△36.0）と4.2ポイントそれぞれ改善した他は悪化している。

地区別では、東紀州地区が△35.4（前回△39.5）と4.1ポイント改善したが、それ以外の地区で悪化となった。

図—8 販売条件



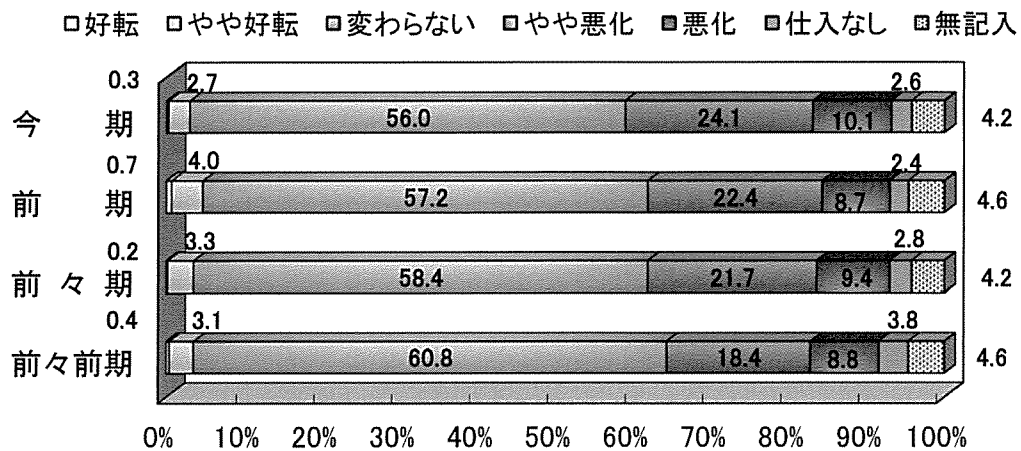
6. 仕入条件 (図—9 参照)

全体では「好転・やや好転」が 3.0% (前回 4.7%)、「やや悪化・悪化」は 34.2% (前回 31.1%) で、D I 値は△31.2 (前回△26.4) となり、4.8 ポイントの悪化となった。

業種別では、卸売業が△30.3 と前回同様となったが、それ以外の業種で悪化となった。特に交通運輸業では△44.9 (前回△29.8) となり 15.1 ポイントの悪化となった。

地区別では、全地区で悪化となったが、中勢地区が△25.6 (前回△25.5) でほぼ横ばいであったほか、他地区でも下げ幅は 10 ポイント未満であった。

図-9 仕入条件



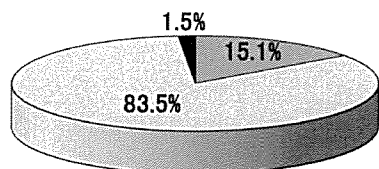
7. 設備投資 (図—10・11 参照)

全体では、設備投資を行った企業は 387 社、15.1% (前回 15.9%)、設備投資を予定している企業は 259 社、10.1% (前回 14.0%) と割合が減少した。

業種別の投資実績では、交通運輸業が 28.6% と最も高く、卸売業が 9.9% と最も低い数値であった。

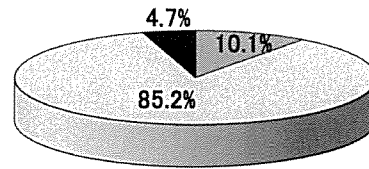
また、地区別では南勢地区が実績 18.8% と最も高く、東紀州地区が 12.0% と最も低い数値であった。予定では中勢地区が 12.1% と最も高く、東紀州地区が 5.7% と最も低い数値であった。

図-10 設備投資の実績



□ 行った □ 行わない ■ 無記入

図-11 設備投資の予定



□ 予定あり □ 予定なし ■ 無記入

8. 資金繰り状況と今後の見通し

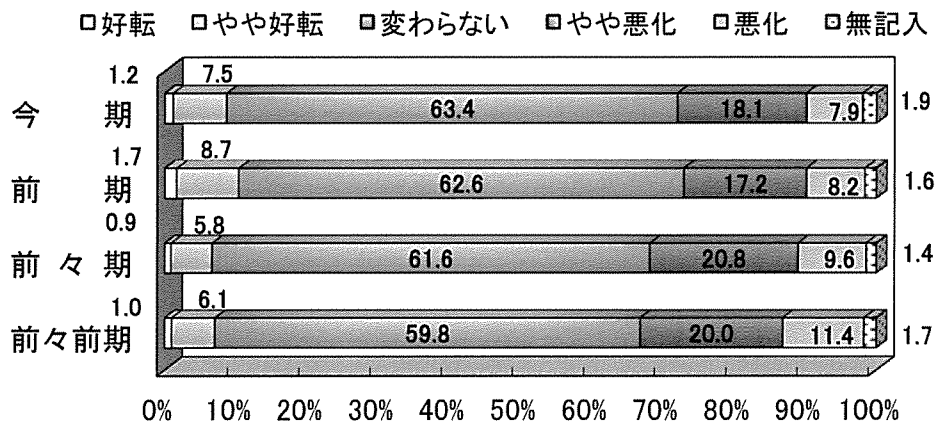
a) 現状 (図-12 参照)

全体では「好転・やや好転」が8.7% (前回10.4%) に対し「悪化・やや悪化」は26.0% (前回25.4%) で、D I 値は△17.3 (前回△15.0) となり2.3ポイント悪化した。

業種別D I 値では、全業種で悪化していた。特に交通運輸業では、△18.4 (前回△12.8) で5.6ポイント悪化した。

地区別D I 値では、中勢、伊賀、東紀州地区が改善、北勢、南勢地区が悪化した。

図-12 資金繰りの現状



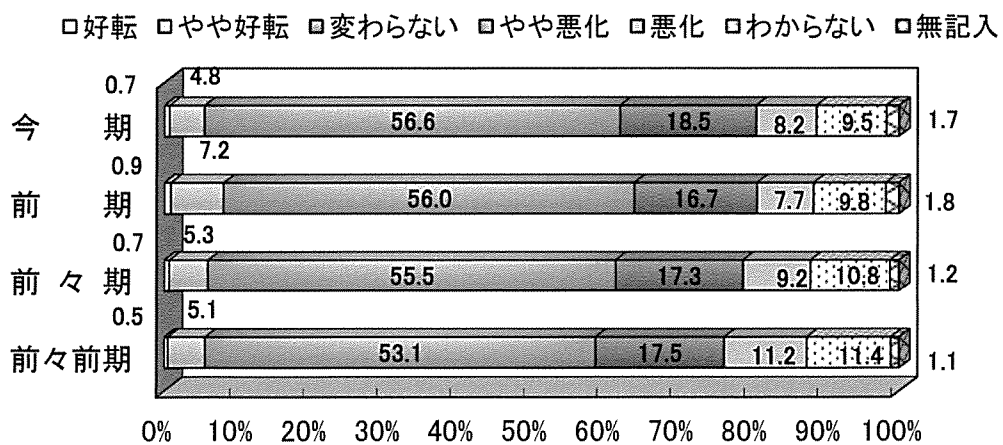
b) 見通し (図-13 参照)

全体では「好転・やや好転」が5.5% (前回8.1%) に対し「悪化・やや悪化」は26.7% (前回24.4%) で、D I 値は△21.2 (前回△16.3) となり4.9ポイント悪化した。

業種別D I 値では、その他の業種が、△9.6 (前回△15.0) で5.4ポイント改善となったが、それ以外の業種で悪化となった。

地区別D I 値では、東紀州地区が△28.6 (前回△29.6) と改善した。

図-13 資金繰りの見通し



9. 借入状況

a) 現状

回答企業 2,569 社のうち、借入を実施した企業は、1,020 社、39.7%（前回 984 社、42.7%）であった。

b) 借入の難易度（図-14・15 参照）

全体では、借入を実施した企業のうち、「容易」が 12.1%（前回 13.8%）、「困難」は 15.6%（前回 15.0%）で、D I 値は△3.5（前回△1.2）となり、2.3 ポイント悪化した。

業種別 D I 値では、建設業、卸売業、飲食業、その他の業種で改善した。また、地区別 D I 値では伊賀地区、東紀州地区で改善した。

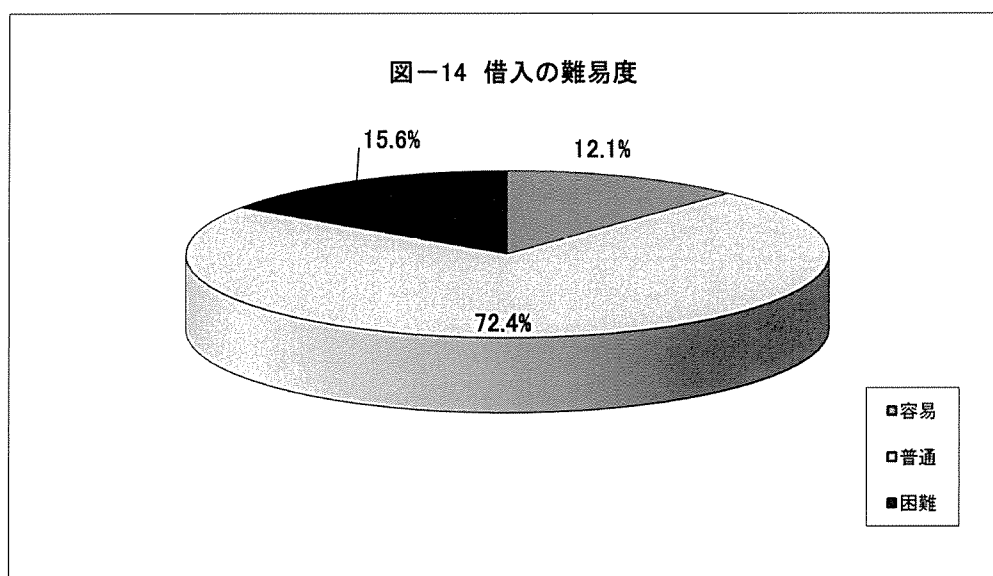
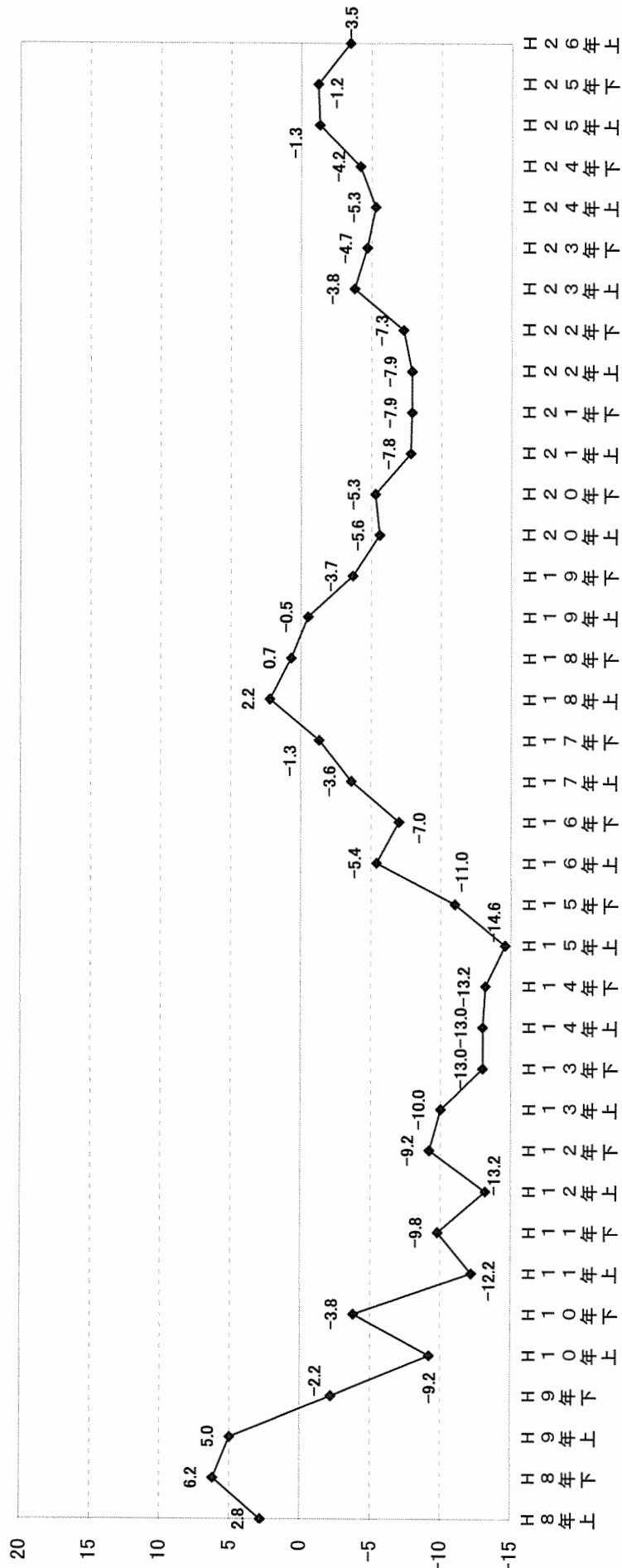


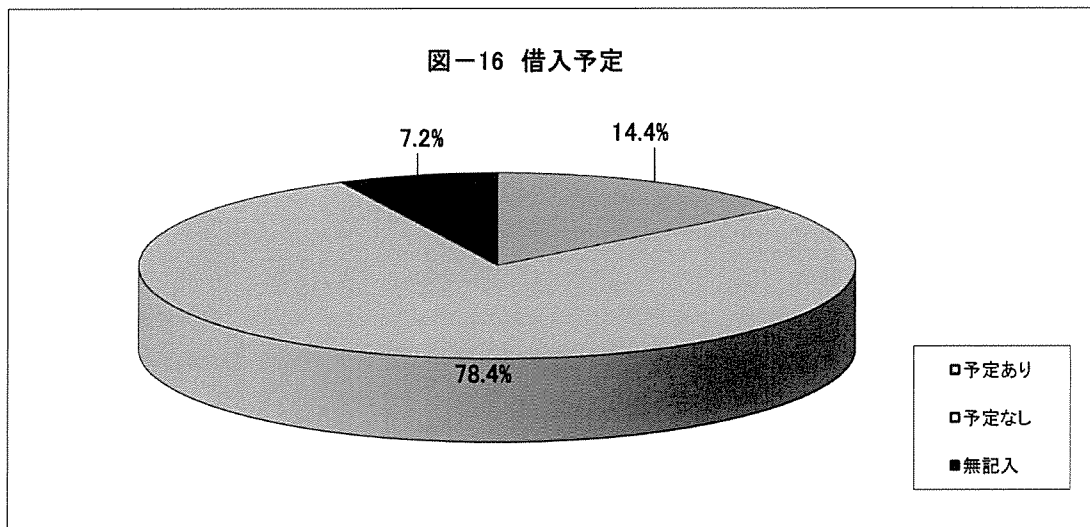
図-15 借入難易度DI値の推移



10. 借入予定（図－16 参照）

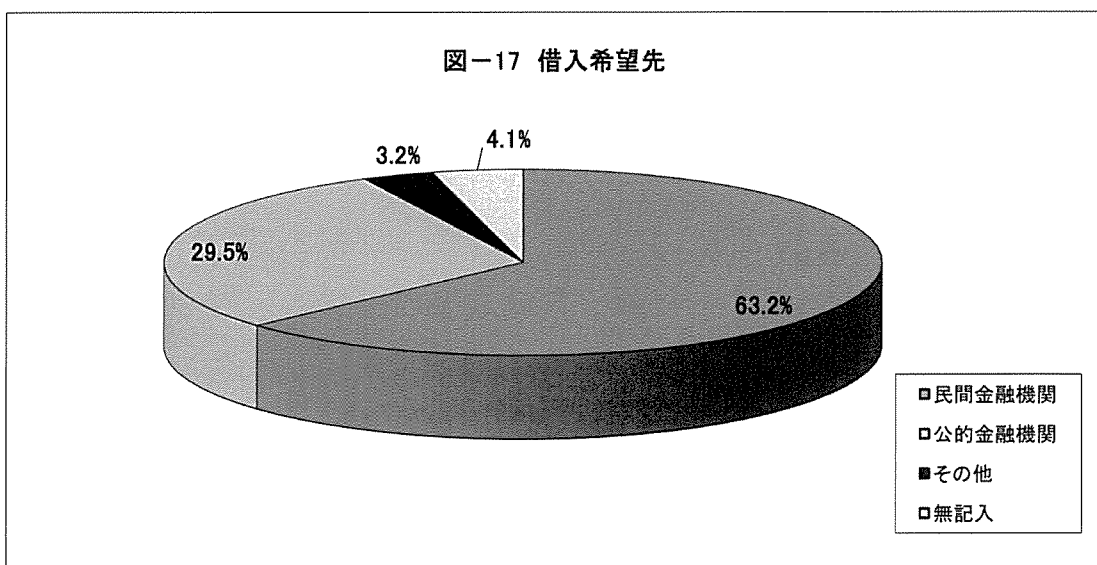
全体では、回答企業 2,569 社中、借入を予定している企業は 370 社、14.4%（前回 15.7%）であった。

業種別で借入を予定しているのは、交通運輸業で 28.6%と最も高く、飲食業で 5.8%と最も低かった。また地区別では、伊賀地区が 18.3%と最も高く、南勢地区が 11.4%と最も低かった。



11. 借入希望先（図－17 参照）

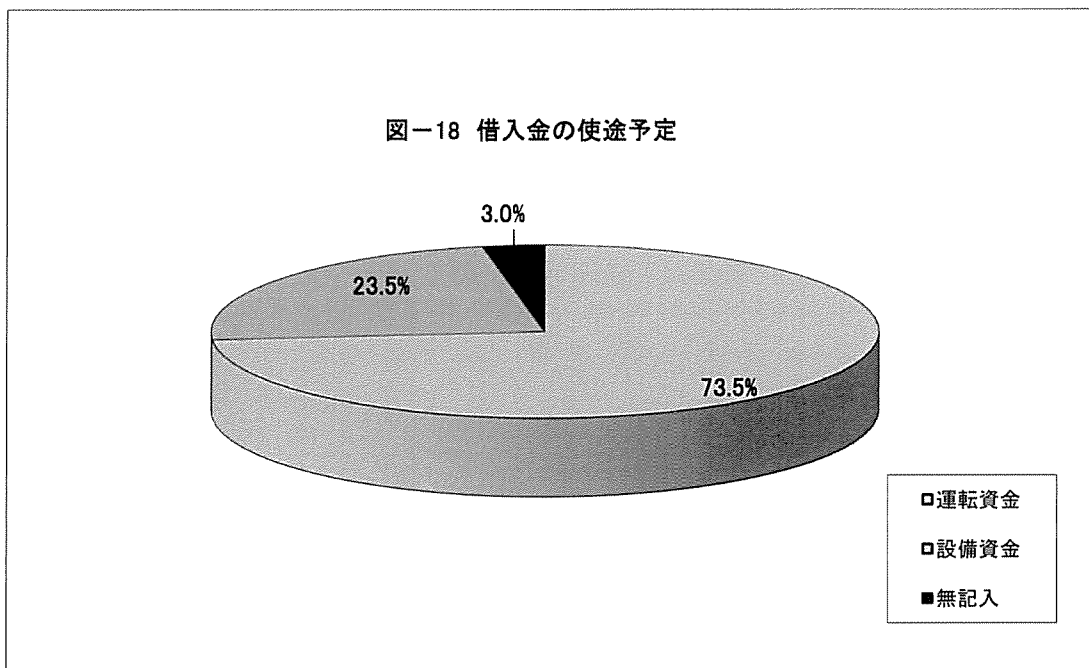
借入を予定している企業のうち、「民間金融機関」は 63.2%（前回 64.6%）、「公的金融機関」は 29.5%（前回 30.9%）となった。



12. 借入金の使途予定（図－18 参照）

全体では、借入を予定している企業のうち、「運転資金」が 73.5%（前回 66.6%）に対し、「設備資金」は 23.5%（前回 29.6%）であった。

業種別では、「運転資金」で卸売業が 96.8%、「設備資金」で飲食業と交通運輸業と 50.0%とそれぞれ最も高かった。



13. 経営上の問題点（表－1 参照）

全体では、「売上・受注の停滞減少」47.8%（前回 46.4%）、「競争激化」26.5%（前回 27.7%）、「原材料高及び不足」19.9%（前回 19.3%）の順となった。

業種別では、交通運輸業以外の業種で「売上・受注の停滞減少」の回答が最も多く、交通運輸業では「人件費以外の経費増加」の回答が最も多かった。

業種別での 2 位の回答は、卸売業、小売業、サービス業では「競争激化」、製造業と飲食業では「原材料高及び不足」、建設業では「人手不足」、交通運輸業では「売上・受注の停滞減少」、その他の業種では「人材育成」となり、業種によって回答に違い見られた。

表-1 経営上の問題点(3項目以内複数回答)

区分		第1位	第2位	第3位
業種別	製造業	売上・受注の停滞減少 46.5%	原材料高及び不足 28.4%	設備店舗の狭小老朽化 21.7%
	建設業	売上・受注の停滞減少 39.7%	人手不足 30.3%	競争激化 29.3%
	卸売業	売上・受注の停滞減少 65.9%	競争激化 33.5%	原材料高及び不足 19.8%
	小売業	売上・受注の停滞減少 61.3%	競争激化 35.9%	設備店舗の狭小老朽化 18.9%
	飲食業	売上・受注の停滞減少 43.4%	原材料高及び不足 37.6%	設備店舗の狭小老朽化 30.1%
	サービス業	売上・受注の停滞減少 42.3%	競争激化 30.9%	設備店舗の狭小老朽化 19.0%
	交通運輸業	人件費以外の経費増加 44.9%	売上・受注の停滞減少 38.8%	原材料高及び不足 28.6%
	その他	売上・受注の停滞減少 37.5%	人材育成 26.9%	競争激化 18.3%
地区別	北勢	売上・受注の停滞減少 45.7%	競争激化 27.8%	人材育成 19.8%
	中勢	売上・受注の停滞減少 47.3%	競争激化 26.7%	原材料高及び不足 19.9%
	南勢	売上・受注の停滞減少 49.7%	原材料高及び不足 25.4%	競争激化 20.4%
	伊賀	売上・受注の停滞減少 49.8%	競争激化 33.8%	原材料高及び不足 21.6%
	東紀州	売上・受注の停滞減少 58.3%	競争激化 21.7%	原材料高及び不足 20.6%
総合		売上・受注の停滞減少 47.8%	競争激化 26.5%	原材料高及び不足 19.9%

県下商工会議所地域の景況

○桑名商工会議所地域

現 状

景気の現状は「良い・やや良い」が 22.7%（前回 21.8%）、「変わらない」が 36.8%（前回 39.6%）、「やや悪い・悪い」が 39.6%（前回 38.4%）となり、D I 値は△16.9（前回△16.6）となった。

前回調査時に比べ 0.3 ポイント悪化という結果となった。

見 通 し

今後の見通しについては、「良い・やや良い」との回答が 14.5%、「変わらない」が 32.8%、「やや悪い・悪い」との回答は 40.7%、D I 値は△26.2（前回△17.4）となった。

前回調査時の見通しと現状のD I 値は同水準であったが、今後の業況は悪化するという見通しである。

目立った変化等

前回調査時は全業種で景気の現状が改善傾向であったが、今回は製造業と建設業のみが改善となり、他は悪化した。

建設業のD I 値は 17.8（前回 7.5）と 10.3 ポイント改善し前回に引き続いて唯一プラスの数値となった。一方で小売業のD I 値は△46.3（前回△35.3）と 11.0 ポイント悪化するなど、業種によって景況にばらつきが見られる。

売上見通しについても悪化を見通す回答が増加しており、今後の業況に慎重な見方を示す回答が増加している。

○四日市商工会議所地域

現 状

「良い・やや良い」が 21.1%（前回は 30.8%）「変わらない」が 39.0%（前回は 34.6%）、「やや悪い・悪い」が 39.3%（前回は 34.6%）との結果となった。現状D I 値は△18.2で前回の△3.8より、14.4 ポイント低下した。

業種別に前回値と比較すると、サービス業を除くすべての業種でD I 値が低下する傾向がみられ、なかでも製造業および建設業では 20 ポイントを超えて大きく低下し、プラスからマイナスへ転じた。

見 通 し

「良い・やや良い」が 12.9%「変わらない」が 47.0%、「やや悪い・悪い」が 39.5%となり、D I 値は△26.6（前回は△8.1）との結果となった。前回の見通しD I 値と比

べると 18.5 ポイント低下した。

業種別に前回見通し値と比較すると、5 業種すべての D I 値が低下しており、なかでも、建設業の D I 値は昨年と比べて 31.5 ポイント減と大幅に低下し、プラスからマイナスに転じた。

今後の業況見通しについて、低下した理由を自由記述項目で伺ったところ、「円安による輸入品の値上がり」「燃料費の増加」などの回答があった。

目立った変化等

全体の景況感をはじめ、売上、利益、販売条件、仕入条件についても、全ての D I 値が前回と比べて低下している。とりわけ、販売条件に関しては、D I 値が△21.2 で前回と比べてマイナス 14.8 ポイントと大きく低下した。

経営上の問題点について見てみると、前回に引き続き「売上・受注の停滞減少」(48.6%)、「競争激化」(29.9%)、「人材育成」(23.4%)の順で上位を占めた。特に今回の調査では、「人件費以外の経費増加」の回答が 14.3%と多く、前回より 5.6%増加した。

前回の調査では大幅な景況感の改善が感じられる結果となっていた製造業、建設業については、一転して現状、見通しともに景況感が悪化している。その原因として、上記の自由記述項目の回答にある、燃料費や輸入材料の高騰があることが考えられる。

○鈴鹿商工会議所地域

現 状

対象 1,008 社 回答 346 社 回答率 34.3%であった。「良い・やや良い」と答えた企業が 23.4% (前回 28.1% : 前年同期 17.8%)、「やや悪い・悪い」と答えた企業は 37.6% (前回 33.8% : 前年同期 46.1%)となった。また、D I 値が△14.2 (前回△5.7 : 前年同期△28.3)と前年同期より 14.1 ポイント改善、前回より 8.5 ポイント悪化している。

業種別では、製造業 D I 値 5.4 (前回 15.6 : 前年同期△21.1)、建設業 D I 値 0 (前回 10.3 : 前年同期△13.7)、卸業 D I 値△14.3 (前回△18.2 : 前年同期△71.5)、小売業 D I 値△38.7 (前回△45.3 : 前年同期△54.4)、飲食業 D I 値△47.9 (前回△43.7 : 前年同期△37.6)、サービス業 D I 値△38.2 (前回△25.0 : 前年同期△37.3)となった。

見 通 し

「良い・やや良い」と答えた企業が 15.1% (前回 19.0% : 前年同期 15.7%)、「やや悪い・悪い」と答えた企業は 41.9% (前回 39.0% : 前年同期 44.7%)となった。また、D I 値が△26.8 (前回△20.0 : 前年同期△29.0)と前年同期より 2.2 ポイント改善、前回より 6.8 ポイント悪化している。

業種別では、製造業 D I 値△10.9 (前回△3.6 : 前年同期△17.2)、建設業 D I 値△13.5 (前回△7.4 : 前年同期△26.5)、卸業 D I 値△50.1 (前回△36.4 : 前年同期△42.9)、

小売業D I 値△54.8(前回△52.9:前年同期△45.6)、飲食業D I 値△39.1(前回△43.8:前年同期△43.8)、サービス業D I 値△42.5(前回△36.3:前年同期△32.6)となった。

売 上

「増加・やや増加」と答えた企業が26.3%(前回30.5%:前年同期18.5%)、「やや減少・減少」と答えた企業は39.6%(前回38.4%:前年同期49.0%)となった。また、D I 値が△13.3(前回△7.9:前年同期△30.5)と前年同期より17.2ポイント改善、前回より5.4ポイント悪化している。

利 益

「増加・やや増加」と答えた企業が22.8%(前回26.9%:前年同期15.4%)、「やや減少・減少」と答えた企業は41.3%(前回39.3%:前年同期48.6%)となった。また、D I 値が△18.5(前回△12.4:前年同期△33.2)と前年同期より14.7ポイント改善、前回より6.1ポイント悪化している。

目立った変化等

現状・見通し・売上・利益のすべての項目において前回調査のD I 値より悪化を示している。業種別の現状において、製造業・建設業・飲食業・サービス業で悪化し、卸・小売業では小幅に回復している結果となった。

D I 値の悪化の要因については、平成26年4月より消費税率が5%から8%へ引き上げられ増税となったことによる消費者マインドの後退・買い控え・受注の停滞及び前回調査で散見された増税前の駆け込み需要による反動などが推察される。一方、卸・小売業では、増税の影響があまり見受けられない部分もあるが、事業主の見通しでは、今後悪化する懸念があるため、注視していく必要がある。

○亀山商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」が22.3%(前年同期18.9%)、「やや悪い・悪い」が45.5%(前年同期36.2%)となり、D I 値は△23.2で、前年同期△17.3より5.9ポイント悪化しており、前期△18.1よりも5.1ポイント悪化しているという結果となった。この割合は「利益状況」についての調査結果とほぼ一致しており、依然として厳しい現状であると言える。

業種別では、建設業、卸売業、小売業、サービス業では悪化が見られたが、製造業、飲食業、交通運輸業では改善が見られた。

見 通 し

全体では、「良い・やや良い」が17.8%(前年同期16.6%)、「やや悪い・悪い」が40.0%(前年同期41.0%)となり、D I 値は△22.2で、前年同期△24.4より2.2ポイント好転した。

業種別では、建設業、交通運輸業で横ばいの数値のほか、製造業、飲食業においては改善の見通しとなっている。

目立った変化等

「経営上困っている問題」として、従来と同様に「売上・受注の停滞減少」や「競争激化」等を挙げる割合が高いが、今回の調査において「人手不足」を挙げる事業所が急激に増加しており、特に建設業、交通運輸業及び飲食業においては最も多い割合の回答となった。

また、「仕入条件」については、「悪化・やや悪化」と回答した事業所の割合は前年同期と比べて15.5%増加しており、今回の数値の中で最も大きな差異が見受けられた。

○津商工会議所地域

現 状

「良い・やや良い」が27.1%（前回25.1%：前年同期20.9%）、「やや悪い・悪い」が34.6%（前回37.4%：前年同期36.5%）、D I値が△7.5（前回△12.3：前年同期△15.6）と前回より4.8ポイントマイナス幅が減少する結果となった。

業種別では前回D I値と比較して建設業と小売業で悪化が見られたが、製造業、卸売業、サービス業で改善が見られた。中でも卸売業は前回D I値の△21.5から今回D I値の△15.4へ改善が見られた。

見 通 し

「良い・やや良い」が12.2%（前回15.9%：前年同期21.3%）、「やや悪い・悪い」が42.0%（前回38.5%：前年同期31.8%）、D I値は△29.8（前回△22.6：前年同期△10.5）と前回より7.2ポイントマイナス幅が増加する見通しとなっている。業種別ではサービス業で横ばいのほか、製造業、建設業、卸売業、小売業、交通運輸業で悪化見込みの数値を示している。

目立った変化等

経営上の問題点としては、「売上・受注の停滞減少」が最も多く48.4%となった。次いで「競争激化」28.2%、「原材料高及び不足」20.7%となった。前回と比較すると3位の順位が変化しており、「人材育成」から「原材料高及び不足」へと移行した。「人手不足」は今回20.2%と前回17.4%と比較すると2.8ポイント上昇しており、人材面での課題が表面化していることがうかがえる。

業種別に見ると、製造業において「原材料高及び不足」は41.2%であり、全業種平均の20.7%と比較して高い割合を示している。

○松阪商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が 17.4% (前回 24.3%)、「やや悪い・悪い」が 44.4% (前回 36.7%) となり、D I 値は△27.0 (前回△12.4) で前回に比べ 14.6 ポイント悪化している。

業種別では建設業を除く全ての業種で悪化した。

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が 8.5% (前回 16.0%)、「やや悪い・悪い」が 39.1% (前回 33.0%) となり、D I 値は△30.6 (前回△17.0) で前回に比べ 13.6 ポイント悪化の見通しとなっている。

業種別では、飲食業を除く全ての業種で悪化の見通しとなっている。

目立った変化等

経営上困っている問題点として、前回と同様「売上・受注の停滞減少」が 46.8% で最も多く、2位は「競争激化」25.9%、3位は「設備店舗の狭小老朽化」20.3% という結果となった。

○伊勢商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が 15.5% (前回 29.0%)、「やや悪い・悪い」が 44.8% (前回 36.1%)、D I 値△29.3 (前回△7.1) と前回に比べ 22.2 ポイント悪化している。

業種別では、小売業を除いて悪化であり、中でも飲食業は前回に比べ 42.1 ポイントと大きく悪化している。また、卸売業においても 38.5 ポイントと悪化している。

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が 8.2% (前回 24.0%)、「やや悪い・悪い」が 50.6% (前回 38.6%)、D I 値△42.4 (前回△14.6) と前回より 27.8 ポイント悪化している。

業種別では、全ての業種で悪化の見通しであり、中でも飲食業は前回に比べ 54.8 ポイント、卸売業は 50.2 ポイント、製造業は 40.7 ポイントと大きく悪化している。

目立った変化等

経営上の問題点として、全体では前回に引き続き、「売上・受注の停滞減少」が 49.0% と最も多く、次いで「原材料高及び不足」23.0%、「競争激化」20.6%の順となっている。

業種別では、交通運輸業は「原材料高及び不足」、「人件費以外の経費増加」が 50.0% と第 1 位となっている。その他で目立った項目として、飲食業で「売上・受注の停滞減少」(前回 25.0%) の割合が前回の倍以上の数字となり、各業種で年々、「人材育成」の割合が高くなってきている事が挙げられる。

その他、今回の調査で現状・見通しともに悪化の傾向が見られた理由として、昨年の御遷宮による効果とのギャップ、消費税増税による影響を挙げる事業所が目立った。

○鳥羽商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」があわせて14.9%、「やや悪い・悪い」があわせて57.0%、D I 値△42.1（前期△10.8）と前期よりも31.3ポイントと悪化している。業種別では建設業を除くすべての業種で悪化している。

見 通 し

今後の見通しについては、「良い・やや良い」との回答は5.0%、「やや悪い・悪い」の回答については59.5%となった。D I 値は△54.5（前期△35.5）で、前期より19.0ポイント悪化の見通し。業種別でも建設業を除く業種で悪化の見通し。

目立った変化等

最近の売上状況と見通しについて、売上状況は全体では「増加・やや増加」が19.1%、「やや減少・減少」が54.6%、D I 値△35.5（前期△19.3）となっている。

見通しについては全体では「増加・やや増加」が6.6%、「やや減少・減少」が46.3%、D I 値△39.7（前期△30.1）と9.6ポイント悪化する見通し。経営上困っている問題では、上位に「売上・受注の停滞減少」、「原材料高及び不足」、「設備店舗の狭小老朽化」が占めている。

○上野商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」が15.9%（前回21.5%）、「やや悪い・悪い」が45.1%（前回36.9%）、D I 値が△29.2（前回△15.4）で、前回に比べ13.8ポイント悪化している。

業種別に見ると、製造業では数値が改善する一方で、建設業、卸売業、小売業、サービス業で前回は下回る結果となった。特に、卸売業はD I 値△57.2（前回25.0）とマイナスに転じており、悪化が著しい。

見 通 し

全体では、「良い・やや良い」が11.0%（前回16.7%）、「やや悪い・悪い」が46.4%（前回36.9%）で、D I 値は△35.4（前回△20.2）となり15.2ポイントの悪化の見通しとなった。

業種別では、建設業が改善の見通しとなったが、製造業、卸売業、小売業、サービス業では悪化の見通しとなった。特に小売業はD I 値が△59.2（前回△15.4）と43.8ポ

イントの大幅な悪化を示しており、厳しい見通しとなっている。

目立った変化等

経営上困っている問題点としては、「売上・受注の停滞減少」が 52.4%と最も多く、続いて2位が「原材料高及び不足」(31.7%)、3位が「競争激化」(30.5%)という結果になっている。上位3項目の並びは前回と同様であった。これらに続いて問題点として挙げたのが「設備店舗の狭小老朽化」(19.5%)で、前回と比較して 8.8%の増加となった。

○名張商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が 19.9%、「やや悪い・悪い」が 40.5%で、D I 値は△20.6 (前回△16.2) となり、前回より 4.4 ポイント悪化した。

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が 16.8%、「やや悪い・悪い」が 40.5%で、D I 値は△23.7 (前回△16.9) となり、前回より 6.8 ポイント悪化の見通しとなった。

目立った変化等

現状D I 値、見通しD I 値などすべてのD I 値が前回より悪化した。仕入条件のD I 値が前回△23.9 ポイントから今回△22.9 ポイントで 1.0 ポイントの改善、資金繰りの現状が前回D I 値△10.6 ポイントから△9.2 ポイントと 1.4 ポイントの改善となった。

経営上困っている問題として「売上・受注の停滞減少」が 48.1% (前回 41.5%) で最も多く、次いで「競争激化」が 35.9% (前回 31.0%) で 2 位、設備店舗の狭小老朽化が前回 7 位から 3 位で 16.8%に急浮上、人件費以外の経費増加が 16.0%で 4 位、5 位は前回と同様の原材料高及び不足で 15.3%となった。

○尾鷲商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」が 5.8%、「変わらない」が 41.3%、「やや悪い・悪い」が 52.9%、D I 値は△47.1 (前回△38.2) と前回より 8.9 ポイント悪化している。

見 通 し

今後の見通しについては、「良い・やや良い」との回答が 3.3%、「変わらない」が 41.3%、「やや悪い・悪い」との回答は 55.3%、D I 値は△52.0 (前回△50.1) となり、前回のD I 値と比べて 1.9 ポイント悪化している。

目立った変化等

経営上困っている問題点については、「売上・受注の停滞減少」との答えが前回よりも6.1%悪化し、62.0%と相変わらず最も多かった。次いで、「原材料高及び不足」24.0%、「競争激化」19.8%の順であった。

その他目立った変化として飲食業が回復傾向にあるが、その背景には高速道路延伸による外来客増加の影響がうかがえる。

○熊野商工会議所地域

現 状

「良い・やや良い」が22.2%（前回13.0%）と25年度下期に比べ9.2%増加したが、「悪い・やや悪い」も55.6%（前回53.7%）で、若干ではあるが増加した。D I値は△33.4（前回△40.7）となり、改善傾向にある。

見 通 し

「良い・やや良い」が9.3%（前回9.3%）、「悪い・やや悪い」が48.2%（前回50.0%）と25年度下期に比べ「良い・やや良い」に変化はなかったが、「悪い・やや悪い」が若干ではあるが改善傾向となった。

D I値も△38.9（前回△40.7）と若干の改善となった。

目立った変化等

今回の調査では、現状の「良い・やや良い」が改善、「悪い・やや悪い」の回答が若干悪化、全体的にみるとあまり変化はみられない。見通しでは「良い・やや良いが」が変化なし、「悪い・やや悪い」が若干改善したがこちらも現状同様全体的にみるとあまり変化はみられない。D I値も現状は7.3ポイント改善したが、見通しに変動はあまり見られなかった。

景況調査票

平成 26 年 7 月

会議所	No.	コード

※各設問に対して該当するものに○をして下さい。

I. 企業の概要

1. 業種 (主たるもの1つ)

〈製造業〉	1. 食料品	2. 繊維製品	3. 機械製品	4. 金属製品	5. 木材木製品
	6. 化学製品	7. 土石窯業	8. 印刷・出版	9. その他	
〈建設業〉	10. 土木工事	11. 建築工事	12. その他		
〈卸売業〉	13. 食料品	14. 繊維・身の回り品	15. その他		
〈小売業〉	16. 繊維・身の回り品	17. 食料品	18. 家具・日用品	19. 電気製品	20. その他
〈飲食業〉	21. 飲食店				
〈サービス業〉	22. 美容・理容	23. ホテル・旅館	24. 自動車整備	26. 不動産	26. その他
〈交通運輸業〉	27. 交通運輸	〈その他〉	28. その他		

2. 常時使用従業員数(会社の役員・家族従業員・パートを除く)

1. 0～5人	2. 6～20人	3. 21～50人	4. 51～100人	5. 101人以上
---------	----------	-----------	------------	-----------

II. 企業の経営状況について

3. 現状について…平成 26 年 1～6 月の業況は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 良	2. やや良	3. 変わらない	4. やや悪い	5. 悪	い
------	--------	----------	---------	------	---

4. 今後の見通しについて…平成 26 年 7～12 月の業況は前年同期に比べてどうなると思いますか。

1. 良	2. やや良	3. 変わらない	4. やや悪い	5. 悪	い	6. わからない
------	--------	----------	---------	------	---	----------

5. 売上状況について…平成 26 年 1～6 月の売上は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 増加	2. やや増加	3. 変わらない	4. やや減少	5. 減少	少
-------	---------	----------	---------	-------	---

6. 売上の見通しについて…平成 26 年 7～12 月の売上は前年同期に比べてどうなると思いますか。

1. 増加	2. やや増加	3. 変わらない	4. やや減少	5. 減少	少	6. わからない
-------	---------	----------	---------	-------	---	----------

7. 利益状況について…平成 26 年 1～6 月の利益は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 増加	2. やや増加	3. 変わらない	4. やや減少	5. 減少	少
-------	---------	----------	---------	-------	---

8. 販売状況(単価・決済方法)について…平成 26 年 1～6 月は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 好	2. やや好	3. 変わらない	4. やや悪	5. 悪	化
------	--------	----------	--------	------	---

9. 仕入条件(単価・決済方法)について…平成 26 年 1～6 月は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 好	2. やや好	3. 変わらない	4. やや悪	5. 悪	化	6. 仕入なし
------	--------	----------	--------	------	---	---------

10. 設備投資について

26 年 1～6 月の実績		26 年 7～12 月の予定	
1. 行った	2. 行わない	1. 予定あり	2. 予定なし

11. 資金繰りの現状について…平成 26 年 1～6 月は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 好	2. やや好	3. 変わらない	4. やや悪	5. 悪	化
------	--------	----------	--------	------	---

12. 資金繰りの見通しについて…平成 26 年 7～12 月は前年同期に比べてどうなると思いますか。

1. 好	2. やや好	3. 変わらない	4. やや悪	5. 悪	化	6. わからない
------	--------	----------	--------	------	---	----------

13. 借入の現状について…平成 26 年 1～6 月はどうでしたか。(借入された方のみ)

1. 容易	2. 普通	3. 困難
-------	-------	-------

14. 借入予定はありますか…(平成 26 年 7～12 月)

1. 予定している	2. 予定していない
-----------	------------

14-1. 借入先は、どこを希望されますか。(主たるもの一つ)

1. 民間金融機関	2. 公的金融機関	3. その他
-----------	-----------	--------

14-2. 資金用途は何を予定されていますか。(主たるもの一つ)

1. 運転資金	2. 設備資金
---------	---------

15. 現在経営上で、困っている問題点は何ですか。あれば3つ以内で選んでください。

1. 売上・受注の停滞減少	6. 設備・店舗の狭小老朽化	11. 競争激化
2. 製品・商品単価の下落	7. 売掛・債権回収の悪化	12. 人材育成
3. 人手不足	8. 人件費の増加	13. 立地条件の悪化
4. 過剰人員	9. 人件費以外の経費の増加	14. 法的規制等(緩和を含む)
5. 借入	10. 原材料高及び不足	15. 税務・経理問題

16. その他困っている問題・ご意見等があればご記入下さい。

()

ご協力ありがとうございました。